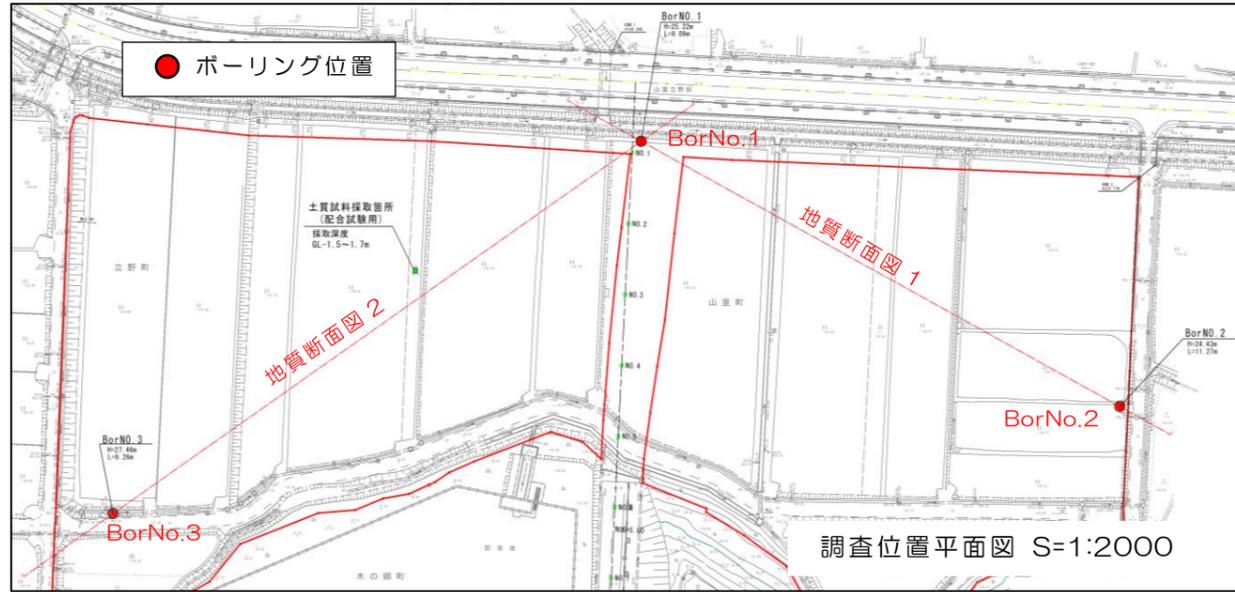


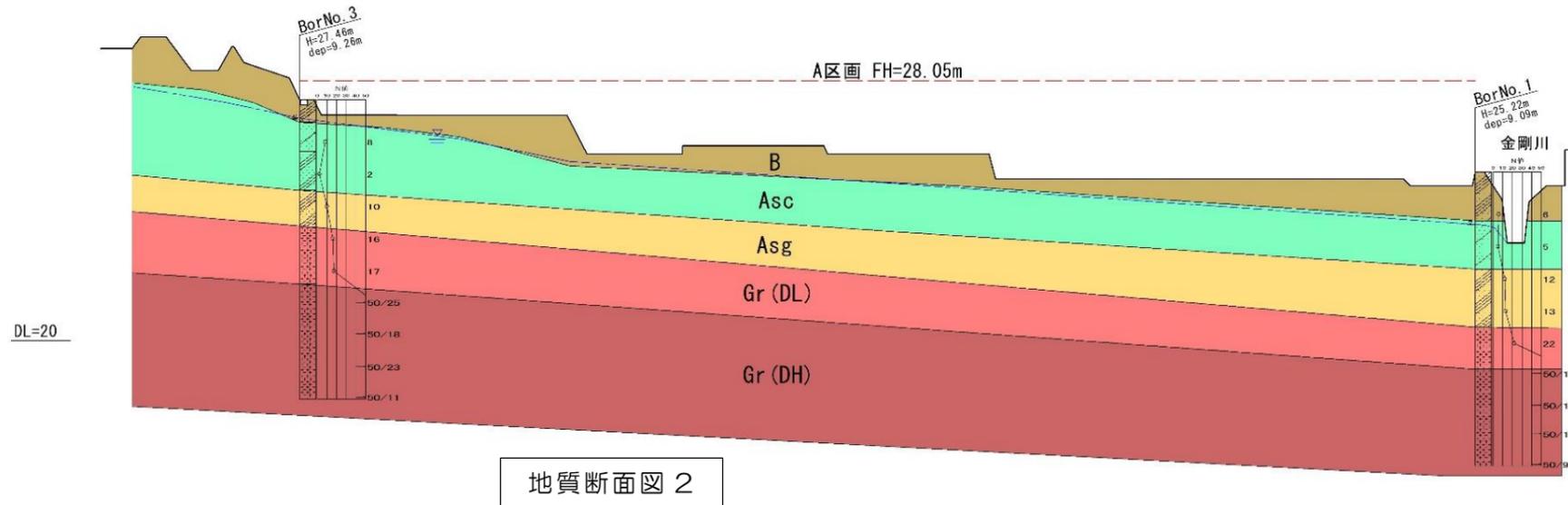
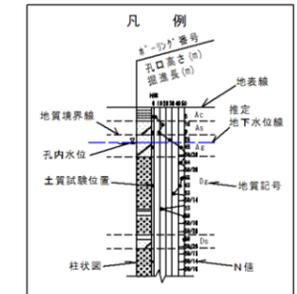
図 1.2 調査位置平面図 (縮尺 1:1000)



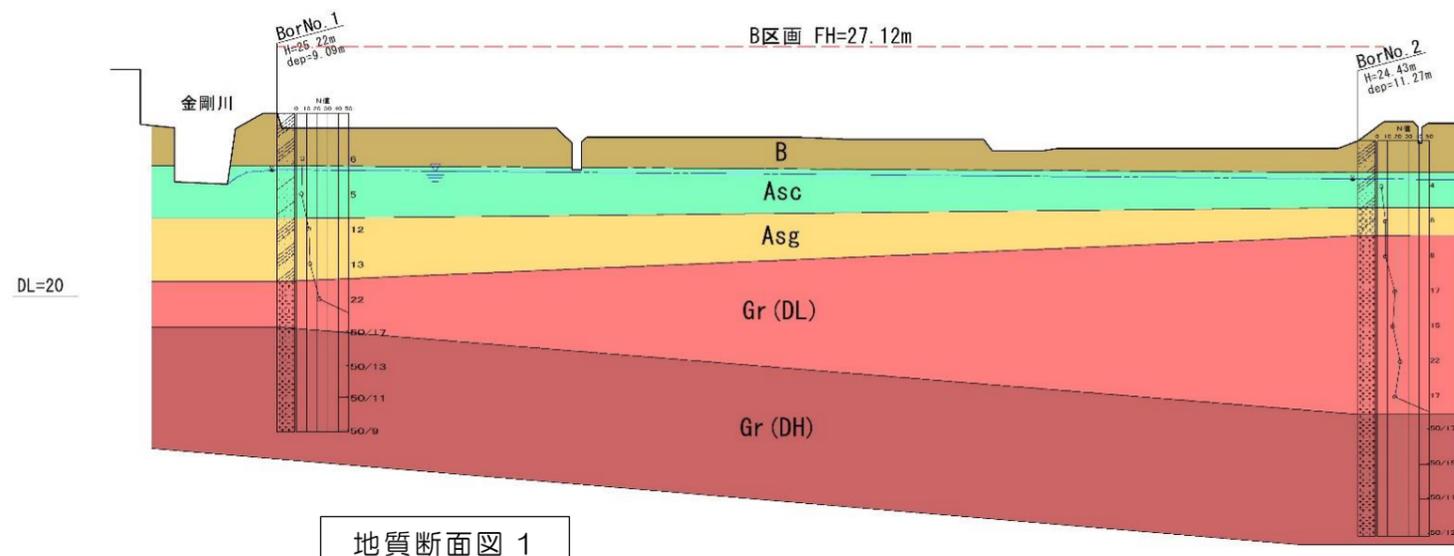
地質構成表

時代	地質区分	記号	N値 (平均)	特徴
現世	表層土	B	6 (6)	表層を構成する耕作土。 細粒分に富む軟質な砂質土主体。 φ2~10mmの礫が少量混じり、灰色を呈する。
第四紀世	沖積層	砂質土 ₁	Asc 2~5 (4)	沖積地の高層土の下位に広く分布する。 細粒分に富む細砂主体を主体とするが、凝縮じり砂を挟む場合がある。灰~青灰色を呈する。
	層	砂質土 ₂	Asg 8~13 (11)	マサ土状の凝縮シルト質砂よりなる。 φ10~30mmの硬質な花崗岩礫が混じる。
中生代	後期白垩紀	凝縮成層	Gr (DL) 8~22 (17)	岩組織は明確だが、風化が著しい。 岩級区分はDL級相当。
	前期白垩紀	凝縮成層	Gr (DH) 60~167 (108)	岩組織は明確で均質だが、風化著しく硬質部は挟まない。岩級区分はDH級相当。

※N値は過大値を除いた値



地質断面図 2



地質断面図 1

※地形線は平面図の読み取りによる。

図 4.1-1 地質断面図：縮小版 (H=1:1000、V=1:200)

